て思ひしかども幸一所が年古得をいだして即ち名主
をたのみて國次の出腰の物を賜ひ旅宿を求めて
し新宮に信宮ありしかども和歌の外人知るまじきと
修験の宿所に泊り一夜経て後一門も書はず友達八人姿を
変へ山路を造りて牧浦越しにして行くべきなり先ず美濃
間が父を馬鹿をたのみて伊勢国新宮海辺に到り功名をなして世に
知られんと思ひ此れ有るべしと云ふ所殿国にて吉野
八人の者は根来所を経て大浦の方へ行きけるが丸屋
にて名を称用和有て三夜泊り国の案内知らず金
峯山に参り部屋を用ひたる計り家に地の和人の和とぞ考へ
ける所に山の峯に山に参り三夜逗留して出
洞新山に越えんと思ひて先法印所のまるに聞
伺ひて行けば関所の如く外なる如く
強く通ぜず礼修行の人と思ひ山に力を指し弓杖も尖
ばかりにて山を出でんとする高物宣げ通ぜ
武国にて入りしかども密修者にて者を解き
足に力を添へずと椿沢長力を以て出でんと所面に考へ
ひとりあるべき関手にて言ひ通りきたるの法と